

お茶園展望台 (展望台内)

お茶園も、この展望ポイントも、日本の過去数世紀にわたる複雑な歴史と深く絡み合っています。

話は大名の蜂須賀氏にまで遡ります。蜂須賀氏は 1585 年から 1871 年まで徳島藩を支配していました。その領地は現在の徳島県を含み、それに加えて 1615 年からは淡路島も組み込まれました。蜂須賀家の歴代大名は時を超えた絶景である鳴門の渦潮を楽しむため、徳島城から船でこの場所を訪れていました。ここには大名たちが、「お茶園」という名前の由来になった仮設の茶室も築いていました。

武家による支配体制が終焉を迎え、政治権力が天皇のもとへと戻り、首都が京都から東京へと移転した 1868 年の明治維新を受けて、鳴門海峡は軍事利用の目的で要塞化されました。しかし、この丘は有名な渦潮の眺めを楽しみたい観光客のために開放され続けました。1945 年に第二次世界大戦が終わり、平和と繁栄の数十年間に伴って国内外からの観光も盛んになり、そのおかげでお茶園とその圧巻の景色もいっそう楽しみやすくなりました。